

の心拍出は動脈ではなく静脈に拍出しており、定常波の静脈に病児の動脈波形を合算した特徴的な波形を示した。また、上述の所見は出生後の血管造影及び剖検にても確認された。

【結語】今回検討した4例では、いずれも静脈管の欠損を特徴としていた。また、痕跡心臓における胎児血流波形パターンは今までに報告されたパターンとは違う特徴的な血流波形であった。

## 6 Reproductive autoimmune failure syndrome (RAFS) の観点から見た妊娠予後改善に関する試み

田村 正毅・高木 偉博・夏目 学浩  
石井 桂介・高桑 好一・田中 憲一

新潟大学産科婦人科

近年、Reproductive autoimmune failure syndrome という疾患概念が提唱され、反復流・死産の原因としてだけでなく妊娠中毒症や子宮内胎児発育遅延の原因として抗リン脂質抗体の関与が注目されている。われわれは、反復流・死産症例、重症妊娠中毒症症例における抗リン脂質抗体の陽性率を検討し、一般妊娠婦人の抗リン脂質抗体と妊娠予後に関する前方視的解析などにより、その因果関係を指摘し、予防的治療を試み良好な成績を得ている。今回、当科の治療方針、予防的治療の実際、予防的治療が著効した症例の経過を報告する。さらに既往異常妊娠症例（重症妊娠中毒症などを伴い、超低出生体重児を分娩するに至った症例）で抗リン脂質抗体陽性であった15症例に対する予防的治療の成績と、既往異常妊娠症例で抗リン脂質抗体陽性であり予防的治療を要すると判断されるも患者の希望にて経過をみた4症例につき報告する。

## 7 30才未満妊娠婦人におけるヒトパピローマウイルス (HPV) 感染に関する多施設共同研究

高桑 好一・石井 桂介・田村 正毅  
田中 憲一

新潟大学産科婦人科

平成13年度厚生科学研究「妊産婦のSTDおよびHIV陽性率及び妊婦STD及びHIV感染の出生児に与える影響に関する研究」研究班

子宮頸癌の発症ウイルスであるヒトパピローマウイルス (HPV) がSTDとして注目されている。今回多施設共同により、30才未満の妊娠婦人についてHPVの陽性率を検討した。1185例中249例(21.0%)で陽性であり、30才未満の妊娠婦人の2割強にHPVの感染が生じていることが推察された。とくに～19才の年齢階層では39例中18例(46.2%)でHPVが認められた。また20才～24才の年齢階層でも241例中68例(28.2%)に陽性であった。一方25～29才では18.0%(905例中163例)の陽性率であった。この結果、～19才および20才～24才の年齢階層では25才～29才の年齢階層に比較し、有意に高率であった。さらに、クラミジア抗原、HPVを共に検索した症例について、複合感染について検討した。クラミジア陽性の51症例中19例(37.3%)にHPVが陽性であった。また、クラミジア抗原陰性症例1134例ではHPVは230例(20.3%)に陽性であった。クラミジア抗原陽性症例におけるHPV陽性率はクラミジア抗原陰性症例に比較し、推計学的に有意に高率であった。以上より、若年妊娠婦人でHPVの感染が高率であること、クラミジアとの複合感染が高率であることが明らかになった。

## 8 Sirenomelia (人魚体症候群) の症例について

須藤 寛人・山口 雅幸・福井 直樹  
菊池 朗・安田 雅子・安達 茂実

長岡赤十字病院産婦人科

人魚体症候群は両脚結合を示す大奇形であり、